

高知県における緊急地震速報の 利活用状況調査結果(速報)

—*Earthquake Early Warnings*—

平成28年3月28日
高知地方気象台

調査目的

南海トラフ地震の発生が懸念されている中、最大クラスの地震が発生した場合、高知県内全域で強い揺れに襲われ、ほとんどの市町村で震度7、震度6強となることが想定されている。

こうした、強い揺れから身の安全を守るためには、家屋の耐震化、家具の固定等の事前の備えのほか、「緊急地震速報」の利用が極めて有効である。

高知地方気象台では、高知県内における緊急地震速報の認知度、とるべき行動に対する理解度等を把握し、緊急地震速報の利用促進に向けた取り組みの基礎資料とするため、高知県、県内34市町村の協力を得て、緊急地震速報の利活用状況に関するアンケート調査を実施した。

調査概要

■調査対象：高知県34市町村 自主防災組織2752団体

■回答数：1700団体（回収率：62%）

■調査手法：郵送調査法

高知地方気象台から県内34市町村、各市町村から当該各自主防災組織へ調査票を送付。調査票は返信用封筒により自主防災組織から高知地方気象台へ郵送。

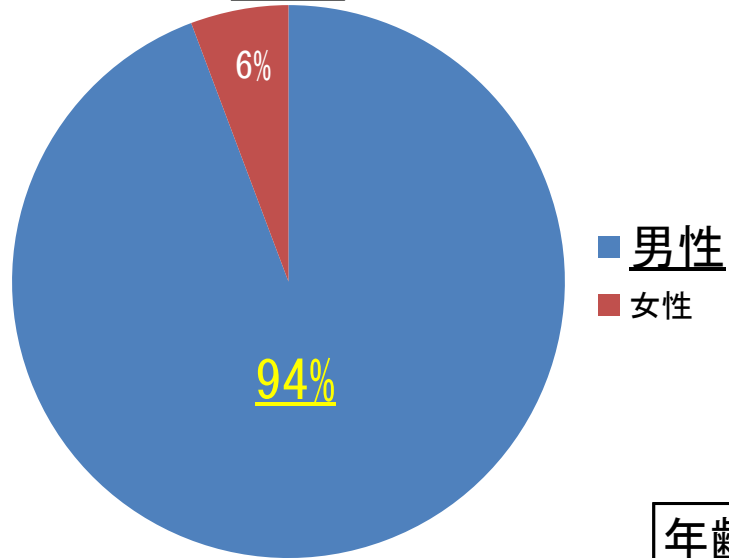
■調査期間：平成28年1月15日～2月22日

設問事項

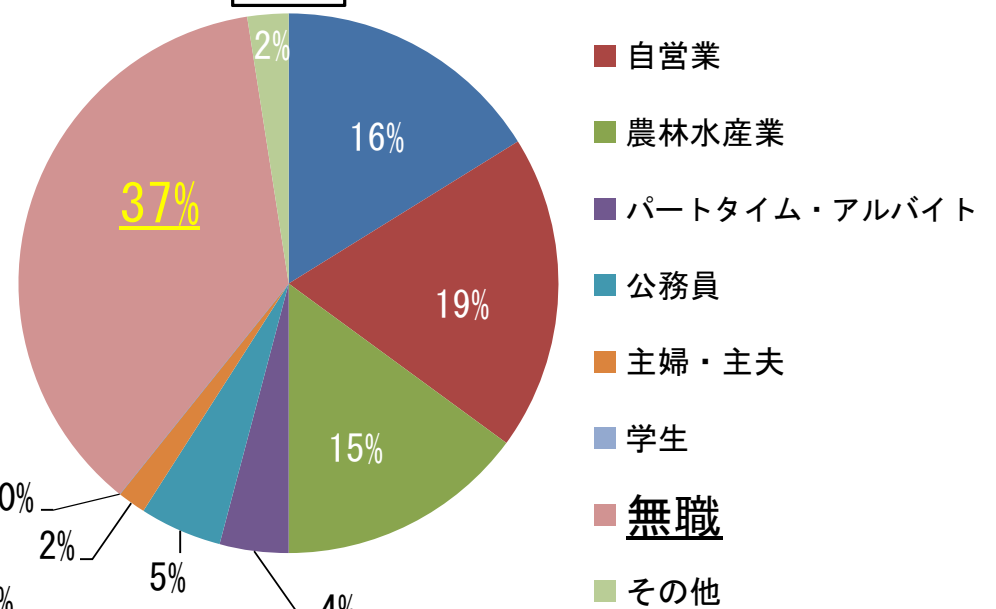
- 設問 1 南海トラフ地震に対する不安感
- 設問 2 南海トラフ地震で不安を感じていること（全体、沿岸市町村）
- 設問 3 地震や津波に備えた事前の取り組み
- 設問 4 緊急地震速報の認知度
- 設問 5 緊急地震速報の内容や特徴についての認知度
- 設問 6 緊急地震速報の音の認知度
- 設問 7 緊急地震速報を見聞きした有無
- 設問 8 緊急地震速報を見聞きした時の印象
- 設問 9 高知県に発表された緊急地震速報を見聞きした有無
- 設問10 最も印象（記憶）に残っている緊急地震速報
- 設問11 緊急地震速報を見聞きした場所
- 設問12 緊急地震速報を見聞きした時の状況
- 設問13 緊急地震速報を見聞きした時の行動
- 設問14 緊急地震速報を見聞きした手段
- 設問15 緊急地震速報の満足度
- 設問16 緊急地震速報を見聞きした場合の行動の理解度
- 設問17 緊急地震速報を鳴動させた訓練の実施の有無
- 設問18 今後、自主防災組織等で取り組むべき事項

対象者属性

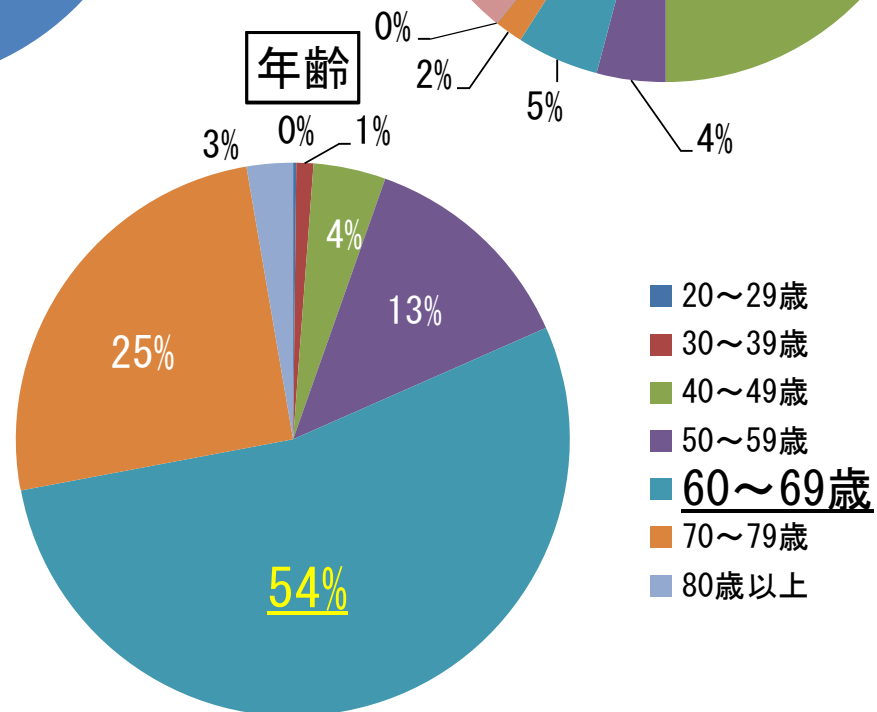
性別



職業



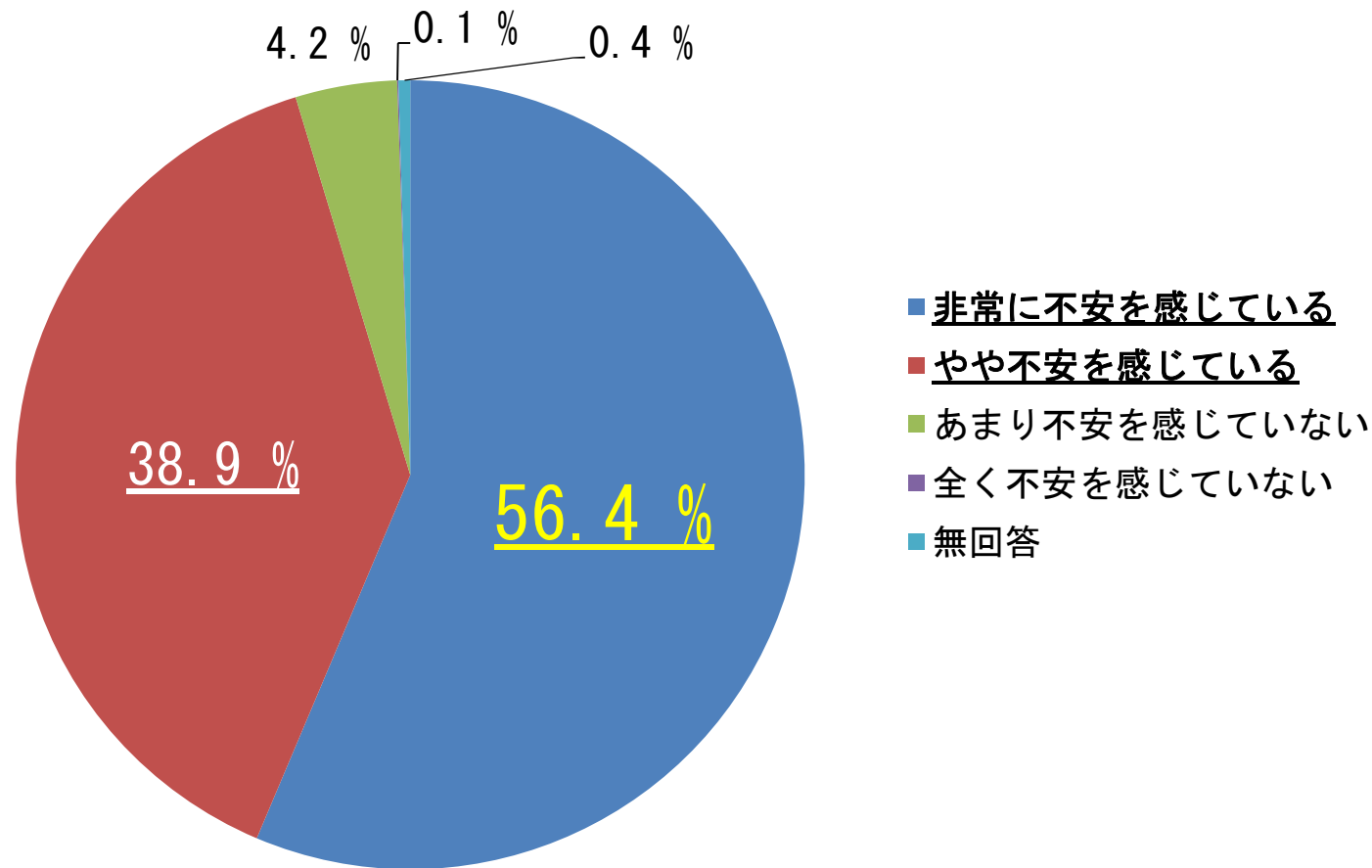
年齢



設問 1

南海トラフ地震に対する不安感

n=1700



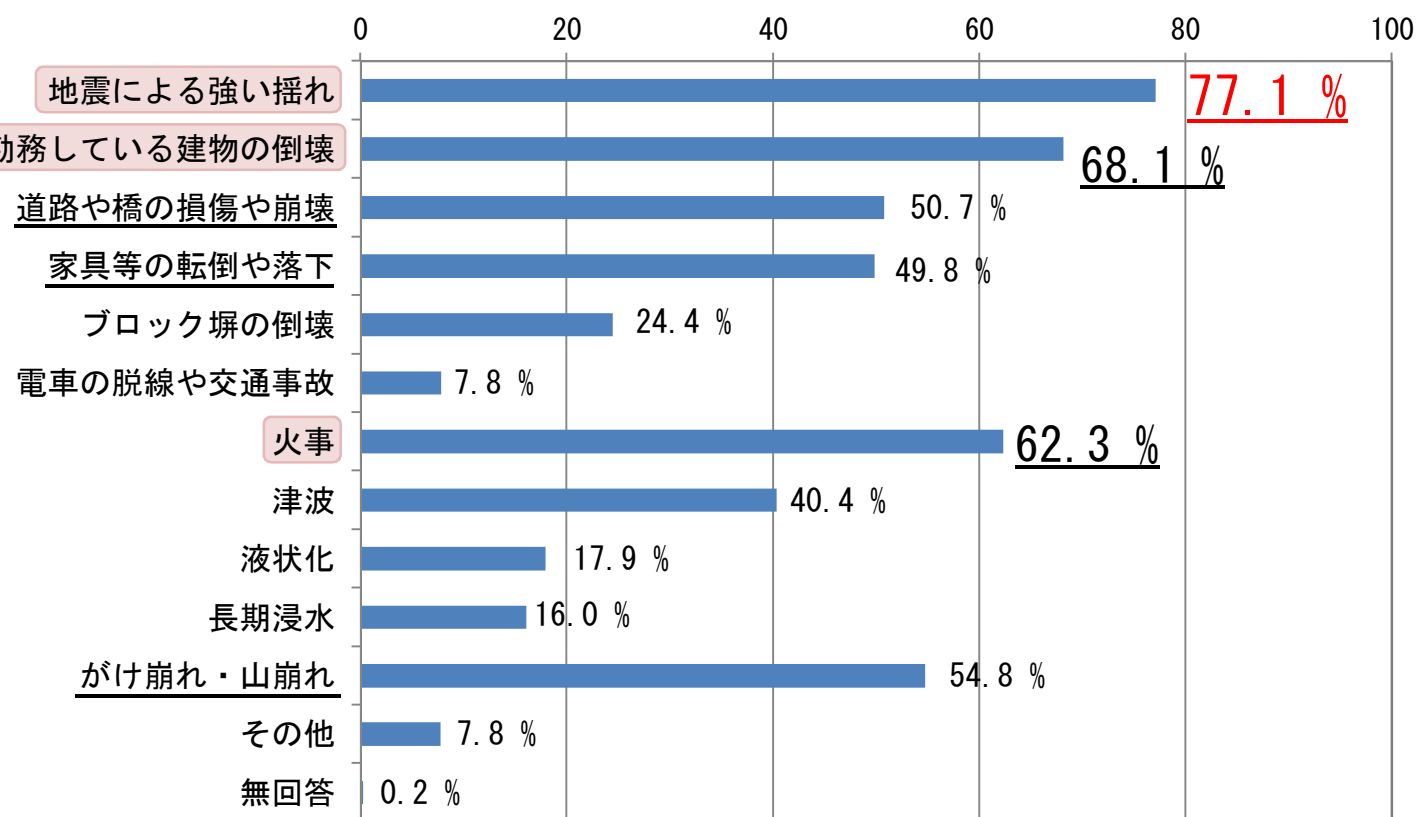
■ 「非常に不安を感じている」 (56.4%) が最も多く、次いで「やや不安を感じている」 (38.9%) となっており、全体で約95%の人が南海トラフ地震に対して不安を感じている。

設問 2

南海トラフ地震で不安を感じていること

n=1620

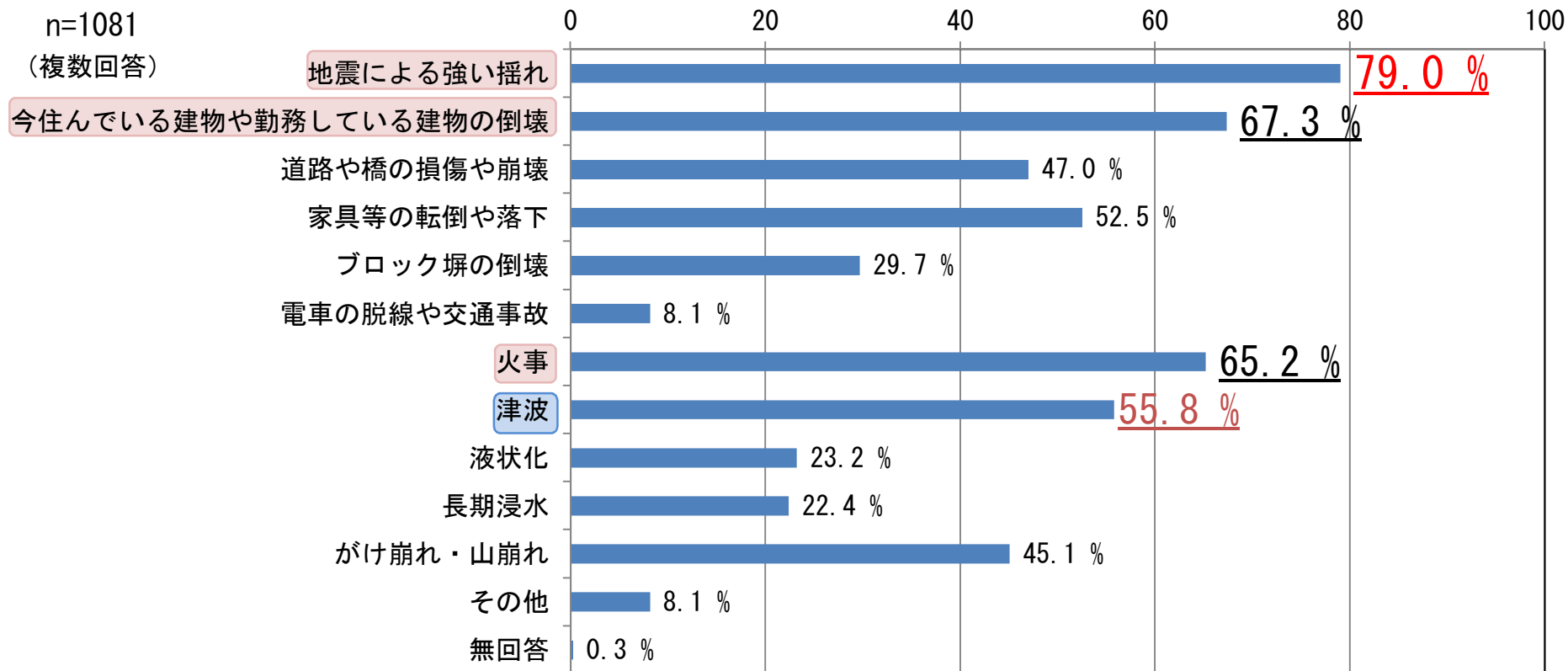
(複数回答)



- 「地震による強い揺れ」 (77.1%) が最も高く、次いで「今住んでいる建物や勤務している建物の倒壊」 (68.1%)、「火事」 (62.3%) となっている。
- 「がけ崩れ・山崩れ」「道路や橋の損傷や崩壊」「家具等の転倒や落下」も、それぞれ50%前後となっている。
- 「津波」については40.4%となっており、他の項目に比べて、比較的低い割合となっている。

設問2
関連

沿岸19市町村において不安を感じていること



- 海岸を持つ19市町村を対象にした場合、「津波」と答えた割合は55.8%となっており、全市町村40.4%に比べて15%程度高くなっている。
- 最も高い割合は、「地震による強い揺れ」(79.0%)、次いで「今住んでいる建物や勤務している建物の倒壊」(67.3%)、「火事」(65.2%)と、全市町村を対象とした割合とほぼ同じ割合になっている。

※沿岸19市町村

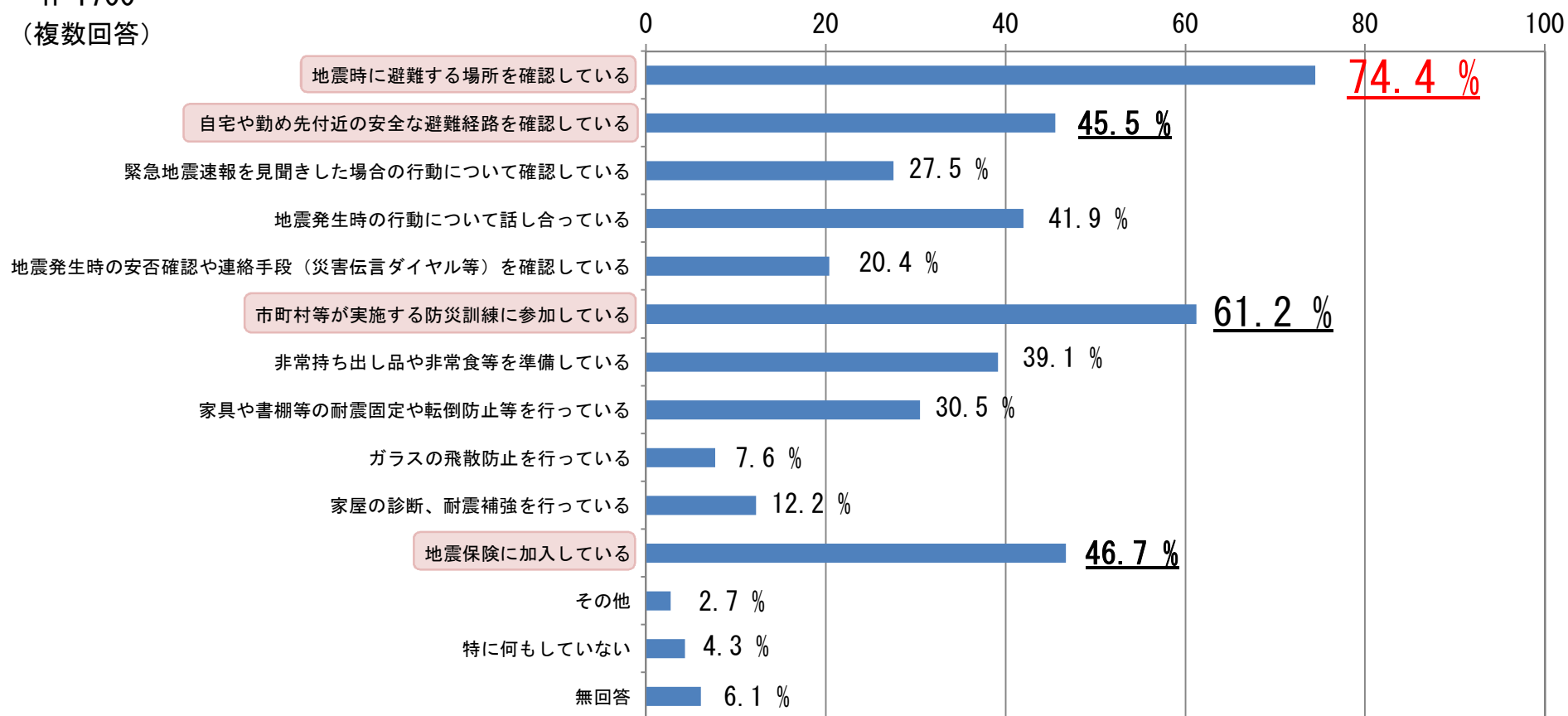
高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、香南市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、芸西村、中土佐町、四万十町、大月町、黒潮町

設問 3

地震や津波に備えた事前の取り組み

n=1700

(複数回答)



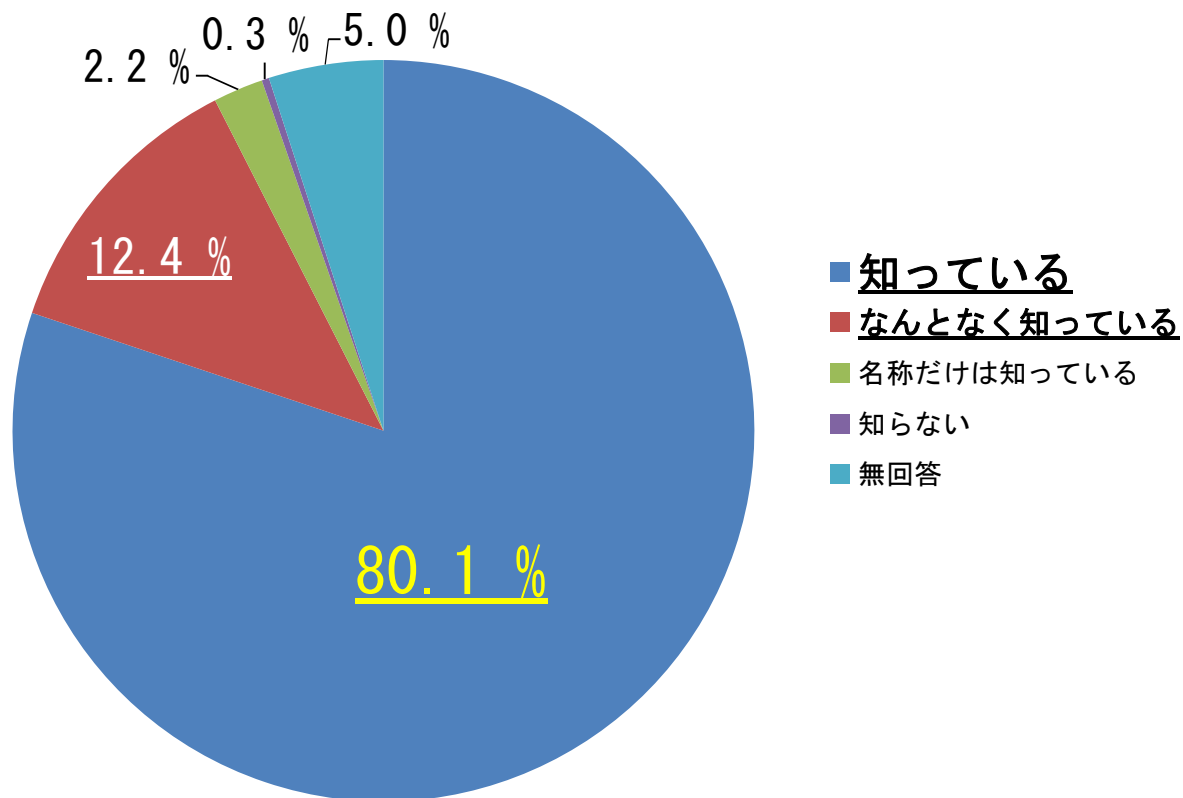
■ 「地震時に避難する場所を確認している」 (74.4%) が最も高く、次いで「市町村等が実施する防災訓練に参加している」 (61.2%)、「地震保険に加入している」 (46.7%)、「自宅や勤め先付近の安全な避難経路を確認している」 (45.5%) と続いている。

■ 「家屋の診断、耐震補強を行っている」 (12.2%) は、低い割合にとどまっている。

設問 4

緊急地震速報の認知度

n=1700



■ 「知っている」 (80.1%)、「なんとなく知っている」 (12.4%) となっており、多くの人が緊急地震速報を知っていると答えている。

■ 「名称だけは知っている」 (2.2%)、「知らない」 (0.3%) 人もわずかにいる。

設問 5 緊急地震速報の内容や特徴についての認知度

n=1609

■ 知っている ■ なんとなく知っていた ■ 知らなかった。初めて知った ■ 無回答

緊急地震速報は、地震発生直後に強い揺れが伝わる前に気象庁から発表される予測情報である。地震の揺れが伝わった後に各地の詳細な震度等を伝える地震情報とは異なる。

緊急地震速報には「警報」「予報」の2種類があり発表基準やお知らせ方法が異なる。

緊急地震速報(警報)は、最大震度が5弱の地震を予測した場合に、震度4以上が予想される地域を対象に発表される。

緊急地震速報(予報)は、マグニチュード3.5以上、または最大予測震度が3以上である場合に発表され、専用の受信端末等で受信できる。

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間は長くても十数秒から数十秒である。

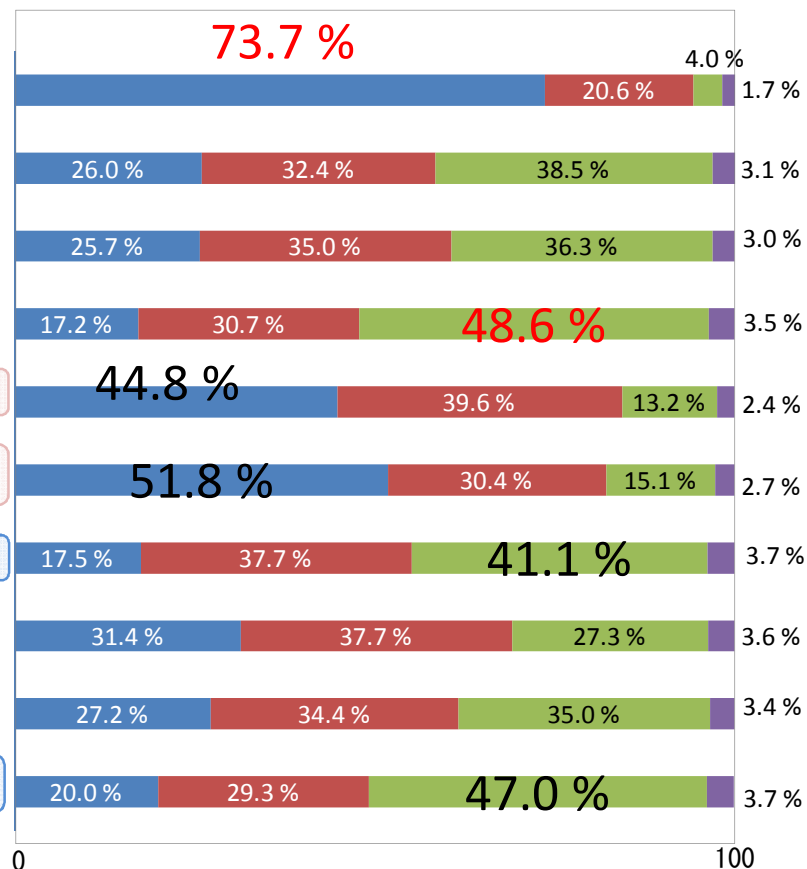
地震が発生した場所に近い所では、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがある。

緊急地震速報で発表される予想震度の値は、震度階級で±1程度の誤差を伴う。

特に大きな地震に対しては、地震の発生した場所や大きさの予測精度に限界がある。

複数の地震が同じ時間に発生したり、近い場所で発生した場合には、それぞれの地震を区別できず的確な発表ができないことがある。

事故、落雷、機器の障害など地震以外の現象を地震と誤認して、緊急地震速報を発表する可能性がある。



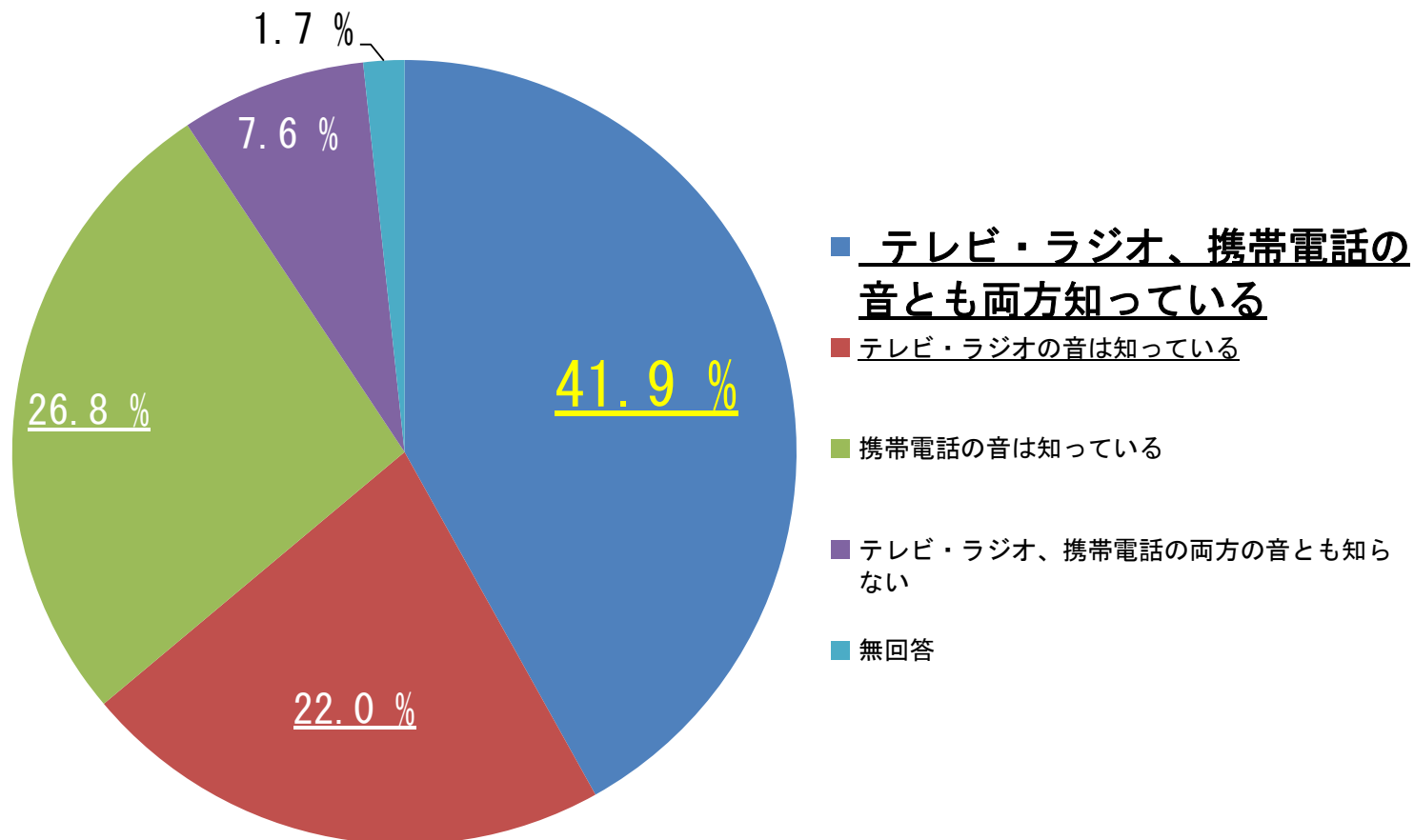
■ 「知っている」の割合を見ると、「強い揺れが来る前にお知らせする予測情報」(73.7%)が最も高い。これに次いで「地震発生場所が近い所では、強い揺れに間に合わないことがある」(51.8%)、「強い揺れが来るまでの時間は長くても十数秒から数十秒である」(44.8%)が高い割合となっているが、いずれも半数程度にとどまっている。

■ 「緊急地震速報で発表される予想震度の値は、震度階級で±1程度の誤差を伴う。」(17.5%)、「事故、落雷、機器の障害など地震以外の現象を地震と誤認して、緊急地震速報を発表する可能性がある。」(20.0%)を「知っている」と回答した人は20%前後とかなり低くなっている。

設問 6

緊急地震速報の音の認知度

n=1609

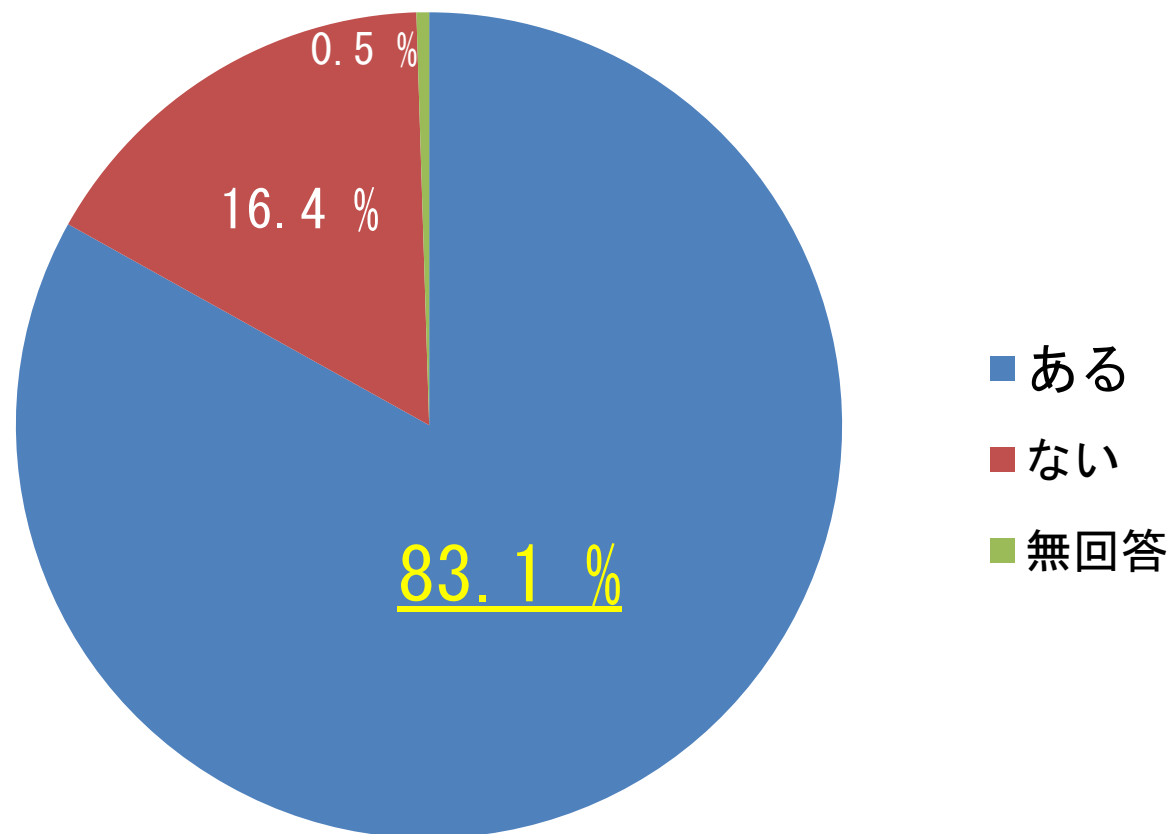


- 「テレビ・ラジオ、携帯電話の音とも両方知っている」 (41.9%) が最も高い。
- 「テレビ・ラジオの音は知っている」 (22.0%)、「携帯電話の音は知っている」 (26.8%) と、どちらかの音しか知らないという人は全体の約50%となっている。
- 「テレビ・ラジオ、携帯電話の両方の音とも知らない」は、全体で8%程度いる。

設問 7

緊急地震速報を見聞きした有無

n=1609

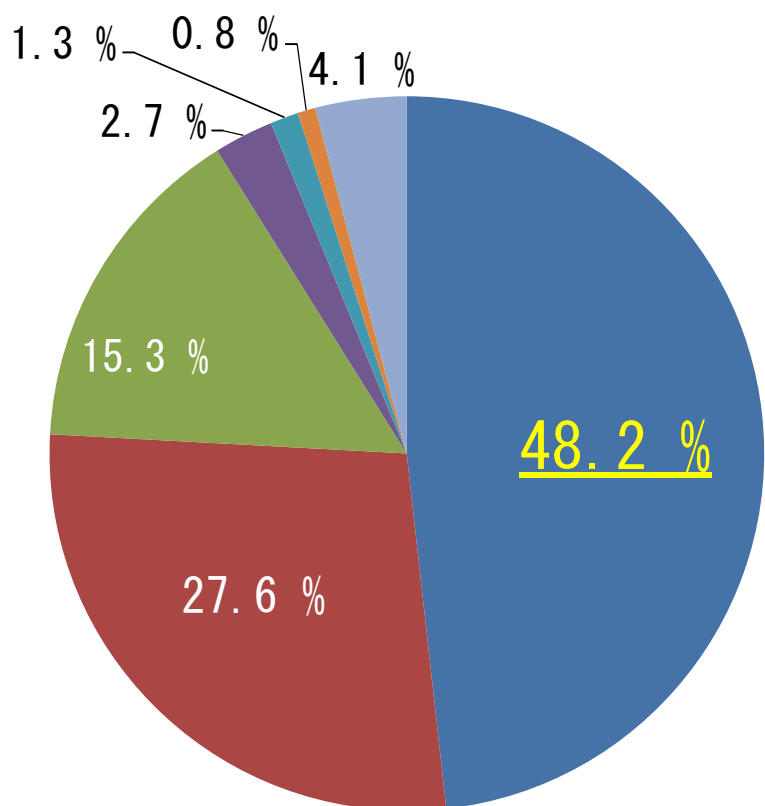


■ これまでに緊急地震速報を見聞きしたことが「ある」と答えた人は83.1%となっているが、「ない」と答えた人も16%程度となっている。

設問 8

緊急地震速報を見聞きした時の印象

n=1337



- 強い揺れが来ると思った
- 揺れが来ると思ったが、強い揺れが来るとは思わなかった
- 揺れが来るかどうか分からないと思った
- 何が何だか分からなかった
- 揺れが来るとは思わなかった
- 何かの間違いだと思った
- 無回答

■ 「強い揺れが来ると思った」（48.2%）の割合が最も高い。
■ 一方、「揺れが来ると思ったが、強い揺れが来るとは思わなかった」（27.6%）、「揺れが来るかどうか分からないと思った」（15.3%）となっており、全体で45%程度の人が正しい理解をしていない。

設問 9 高知県に発表された緊急地震速報を見聞きした有無

n=1337 (複数回答)

2013年4月13日5時33分 淡路島付近の地震 (発表地域: 東部、中部)

2013年8月8日16時56分 和歌山県北部の地震 (誤報) (発表地域: 東部、中部、西部)

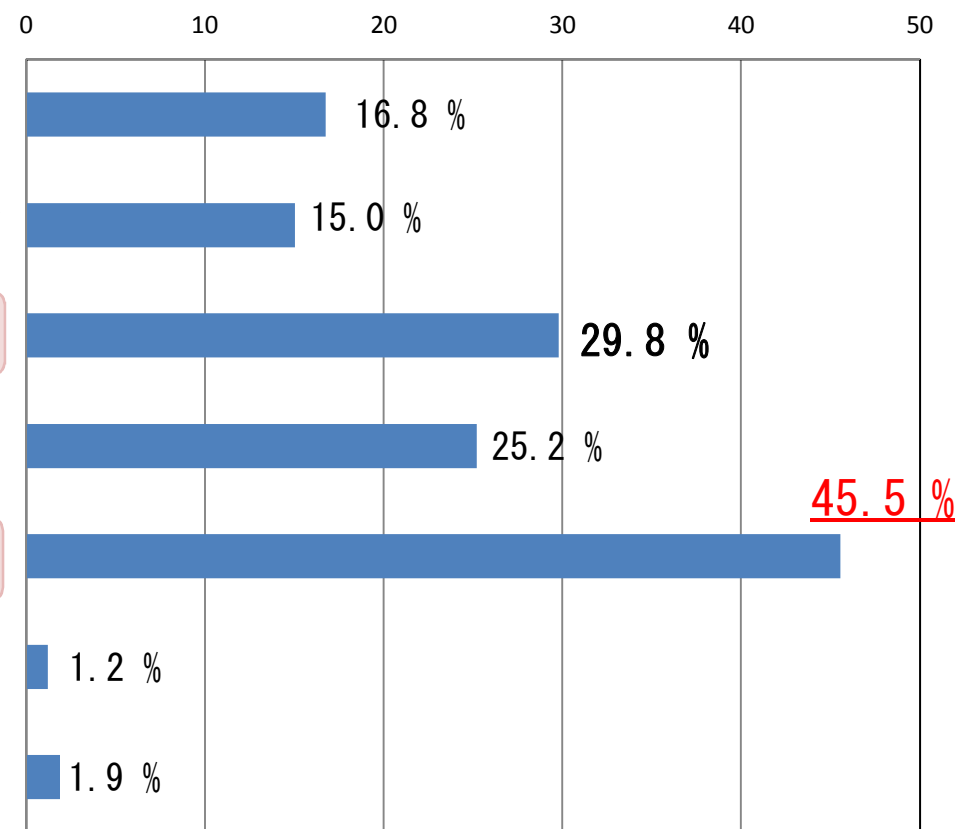
2014年3月14日2時6分 伊予灘の地震 (発表地域: 東部、中部、西部)

2015年2月6日10時25分 徳島県南部の地震 (発表地域: 東部、中部)

どの地震かは覚えていないが、確かに見聞きしたことがある

見聞きしたことがない

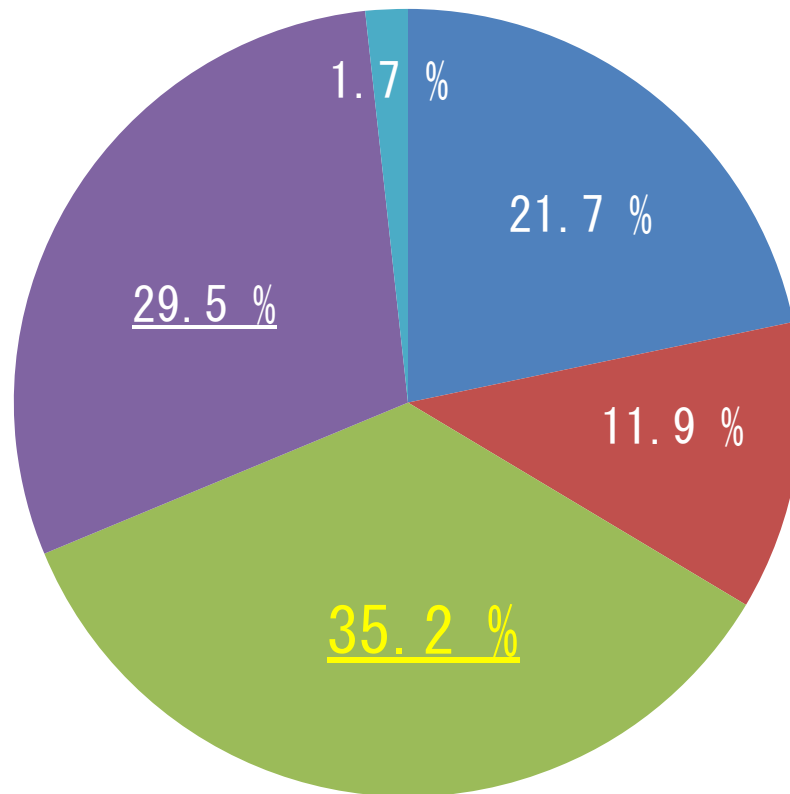
無回答



- 深夜に県内全域を対象に発表した伊予灘の地震で見聞きした人 (29.8%) が高くなっている。
- その他の地震については、15~25%前後の人が見聞きしたと答えている。
- 「どの地震かは覚えていないが、確かに見聞きしたことがある」と答えた人は、45.5%と最も高くなっている。

設問10 最も印象(記憶)に残っている緊急地震速報

n=691



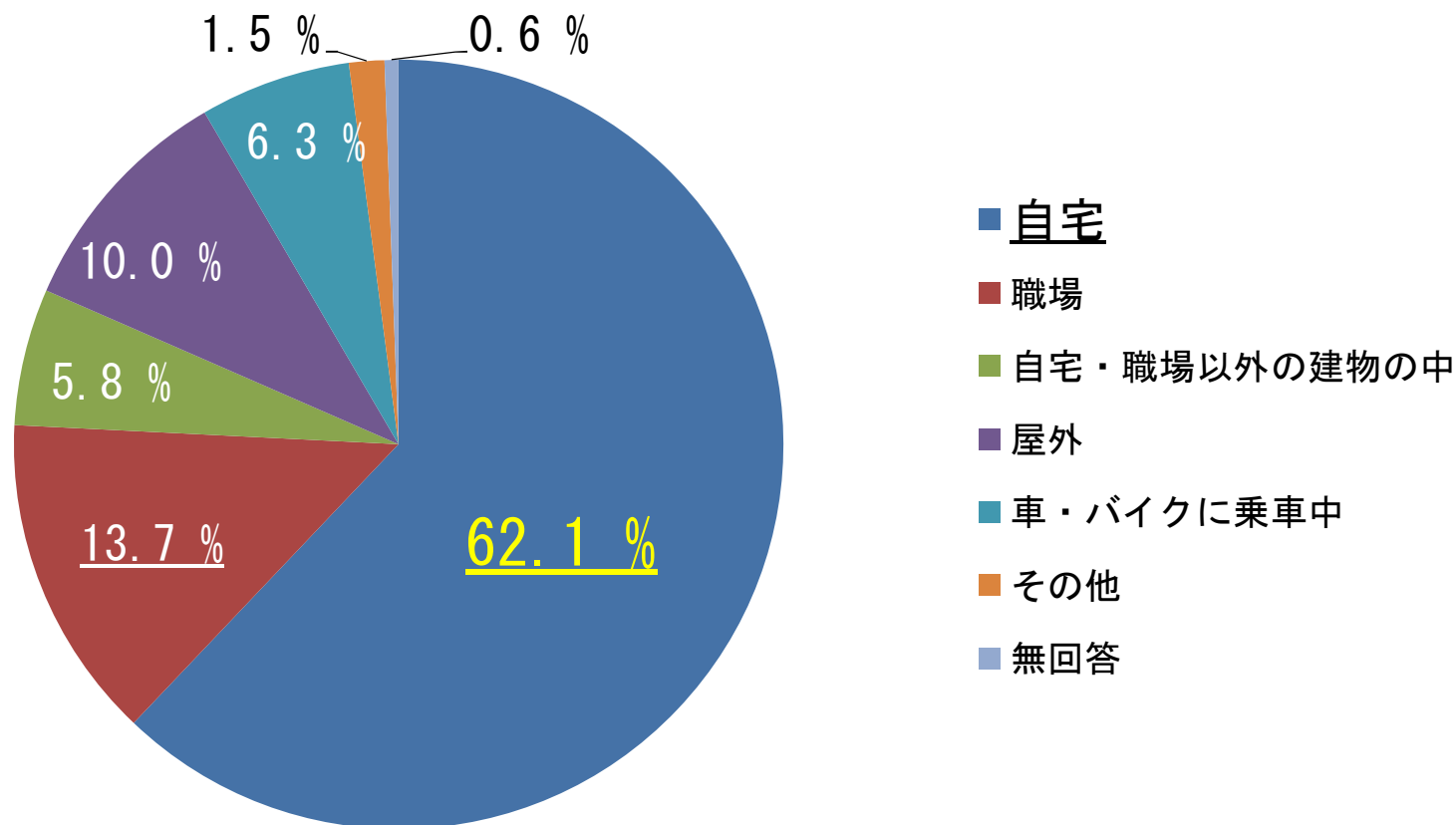
- 2013年4月13日5時33分 淡路島付近の地震
(発表地域：東部、中部)
- 2013年8月8日16時56分 和歌山県北部の地震
(誤報) (発表地域：東部、中部、西部)
- 2014年3月14日2時6分 伊予灘の地震
(発表地域：東部、中部、西部)
- 2015年2月6日10時25分 徳島県南部の地震
(発表地域：東部、中部)
- 無回答

■最も印象に残っている地震は、高知県全域を対象に深夜に発表した伊予灘の地震（35.2%）が最も高く、次いで高知県東部、中部を対象に日中に発表した徳島県南部の地震（29.5%）が高くなっている。

設問11

緊急地震速報を見聞きした場所

n=678



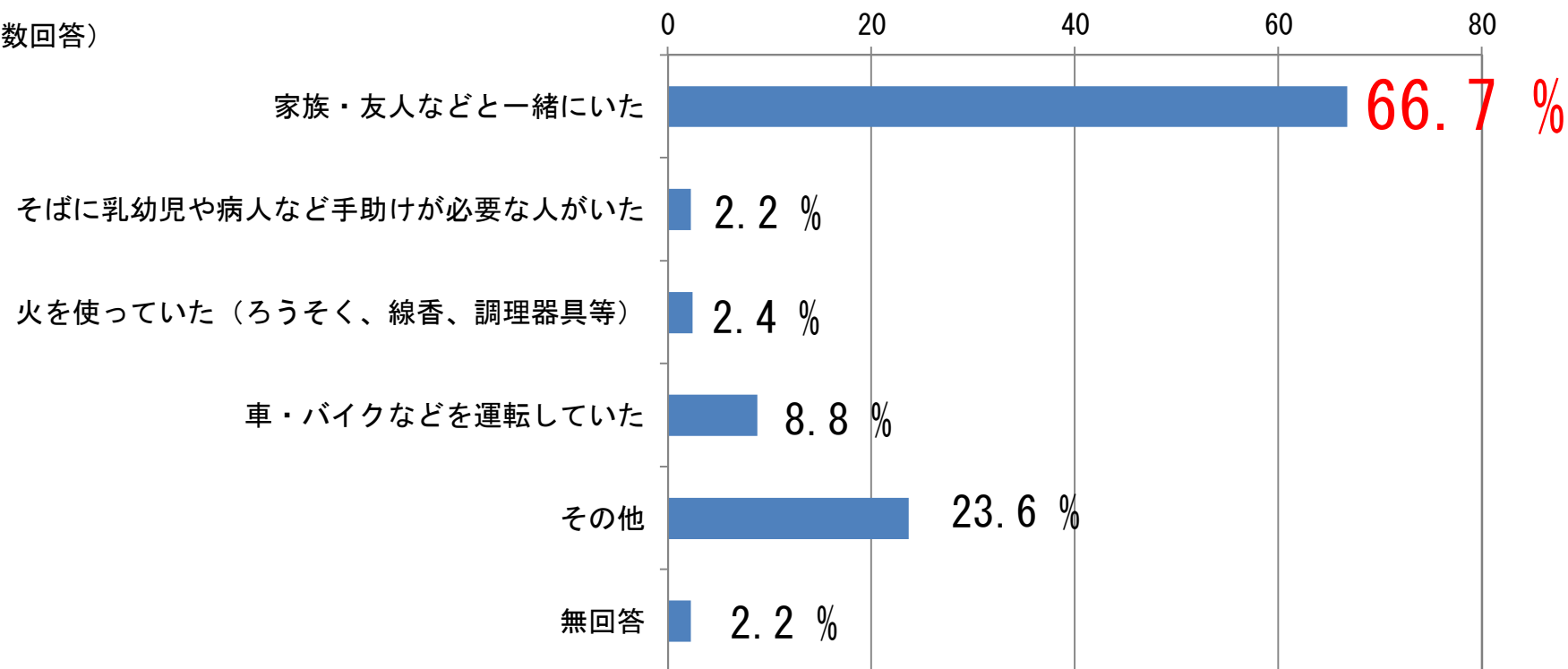
- 緊急地震速報を「自宅」（62.1%）で見聞きした割合が最も高い。
- 地震別に見ても、「自宅」で見聞きしたケースが多く、特に、早朝の淡路島付近の地震（05時33分）、深夜の伊予灘の地震（02時06分）はいずれも80%程度と高くなっている。

設問12

緊急地震速報を見聞きした時の状況

n=673

(複数回答)

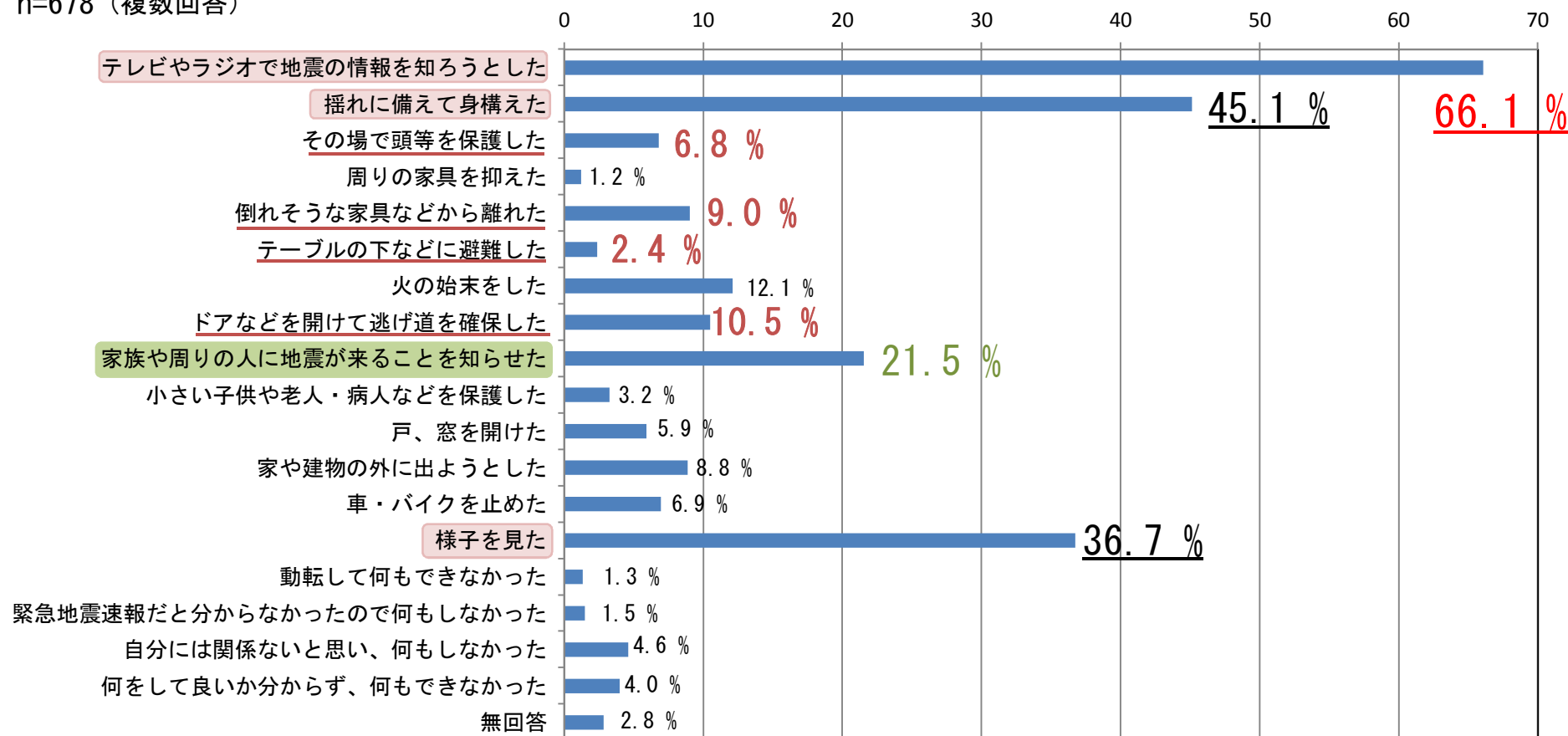


- 緊急地震速報を見聞きした時の状況は、「家族・友人などと一緒にいた」(66.7%)が圧倒的に高くなっている。
- ついで、「その他」の23.6%となっており、その詳細では、一人でいた、就寝中であった、農作業中などが多かった。

設問13

緊急地震速報を見聞きした時の行動

n=678 (複数回答)



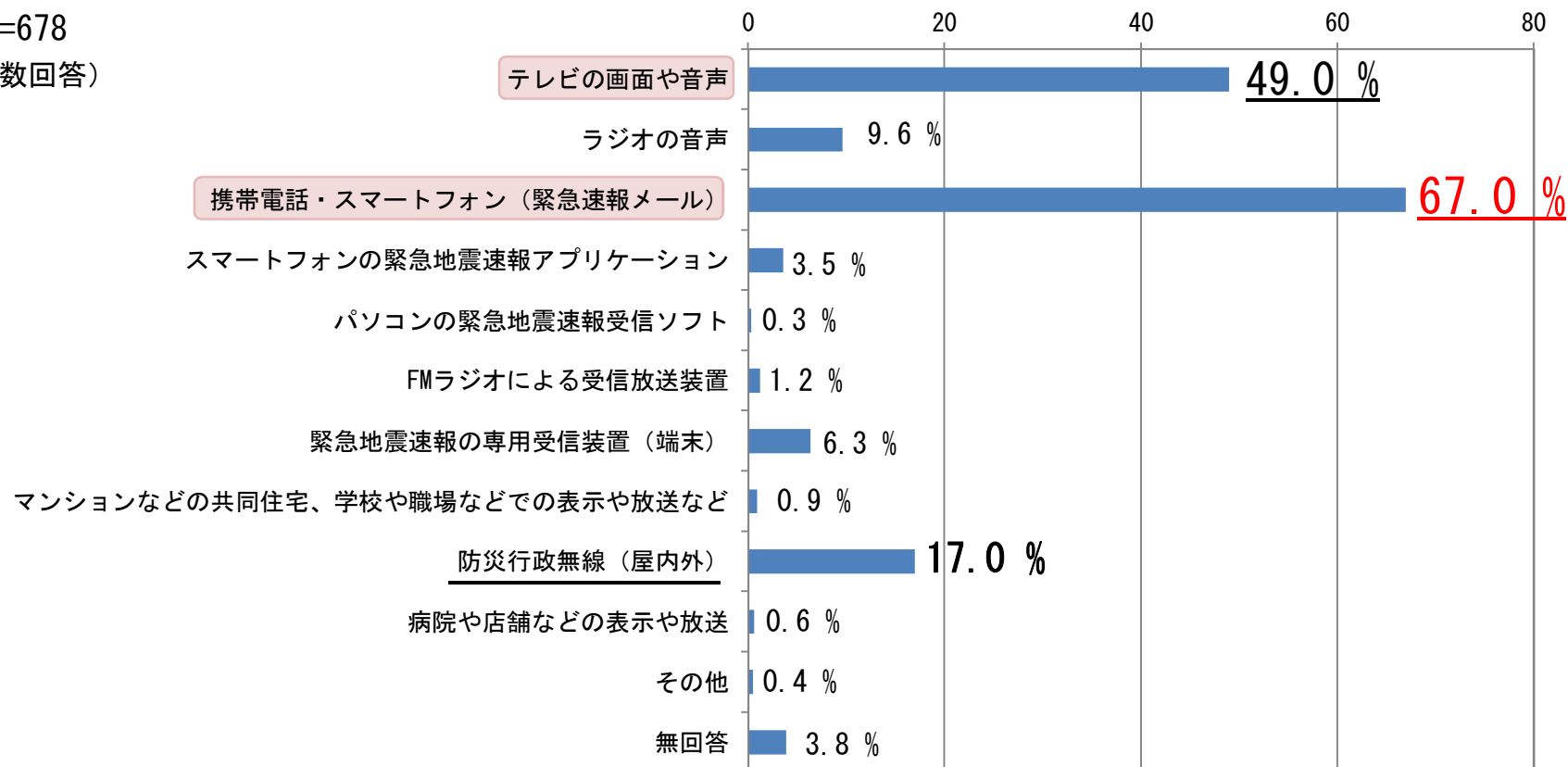
■ 「テレビやラジオで地震の情報を知ろうとした」 (66.1%) と最も高く、次いで「揺れに備えて身構えた」 (45.1%)、「様子を見た」 (36.7%) となっている。

■ 一方、身の安全を守るための具体的な行動をみると、「ドアなどを開けて逃げ道を確保した」 (10.5%)、「倒れそうな家具などから離れた」 (9.0%)、「その場で頭等を保護した」 (6.8%)、「テーブルの下などに避難した」 (2.4%) と、いずれも低い割合となっている。

設問14

緊急地震速報を見聞きした手段

n=678
(複数回答)

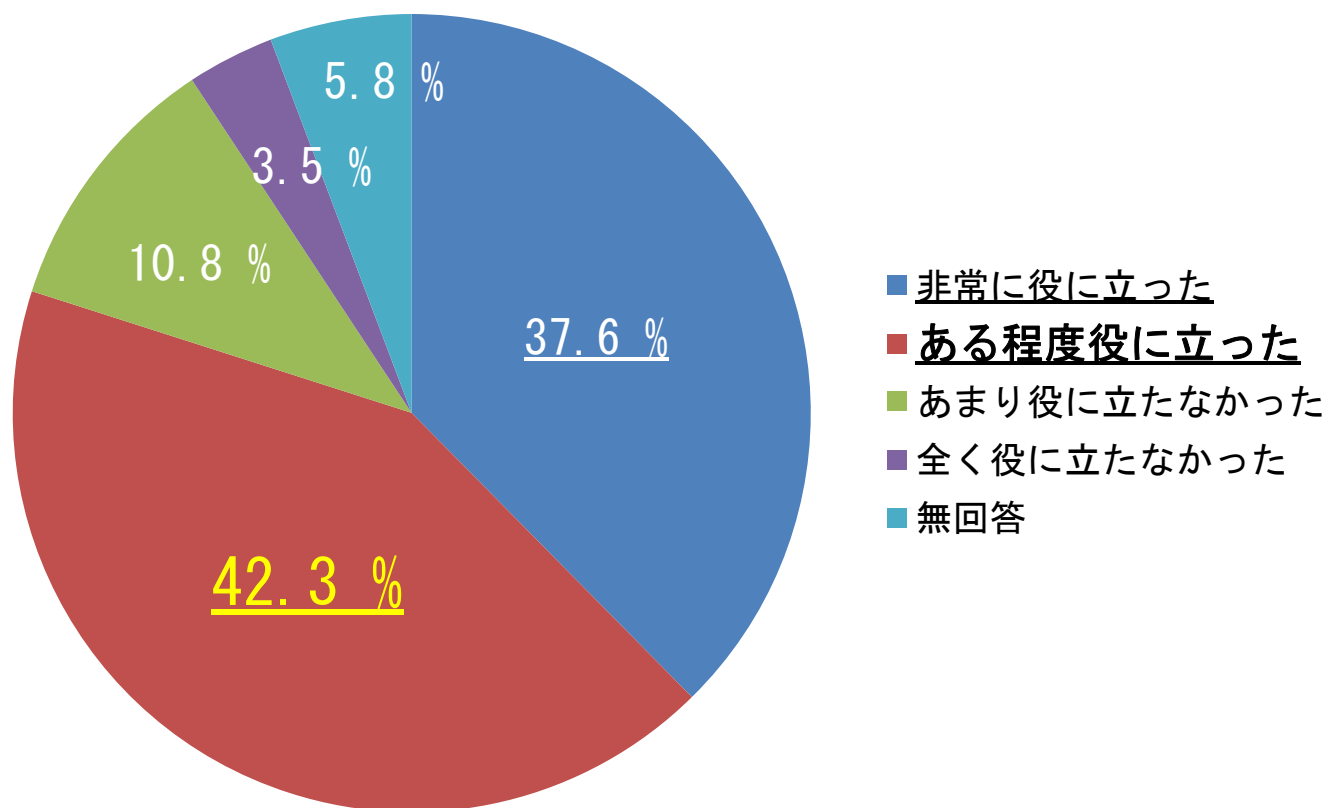


- 「携帯電話・スマートフォン (緊急速報メール) (67.0%) が最も高く、次いで「テレビの画面や音声」 (49.0%)、「防災行政無線」 (17.0%) となっている。
- 地震別に見ても、早朝の淡路島付近の地震を除き「携帯電話・スマートフォン (緊急速報メール)」が70~80%となっており、地震発生の時間帯による大きな違いは見られない。

設問15

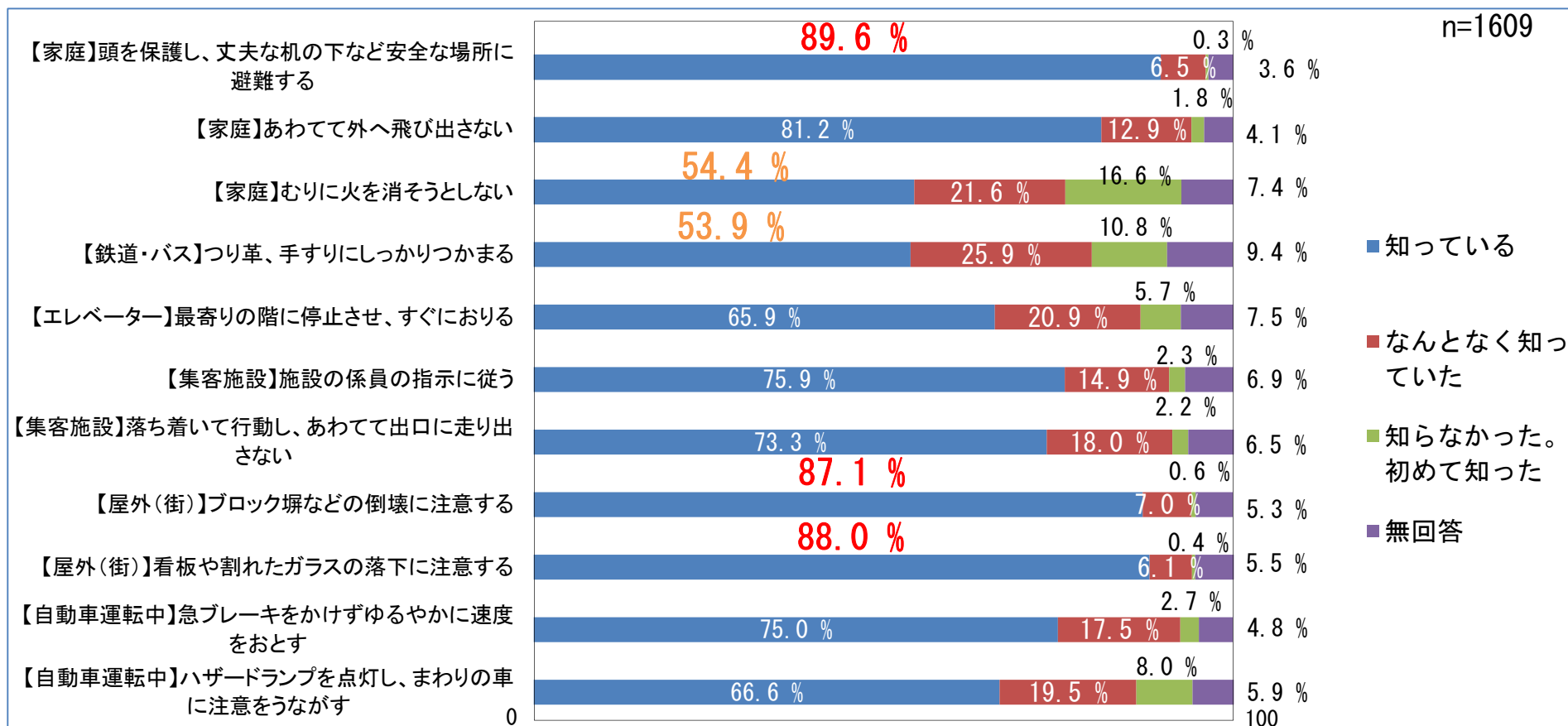
緊急地震速報の満足度

n=678



■ 「ある程度役に立った」 (42.3%)、「非常に役に立った」 (37.6%) となっており、約80%の人が役に立ったと回答している。

設問16 緊急地震速報を見聞きした場合の行動の理解度



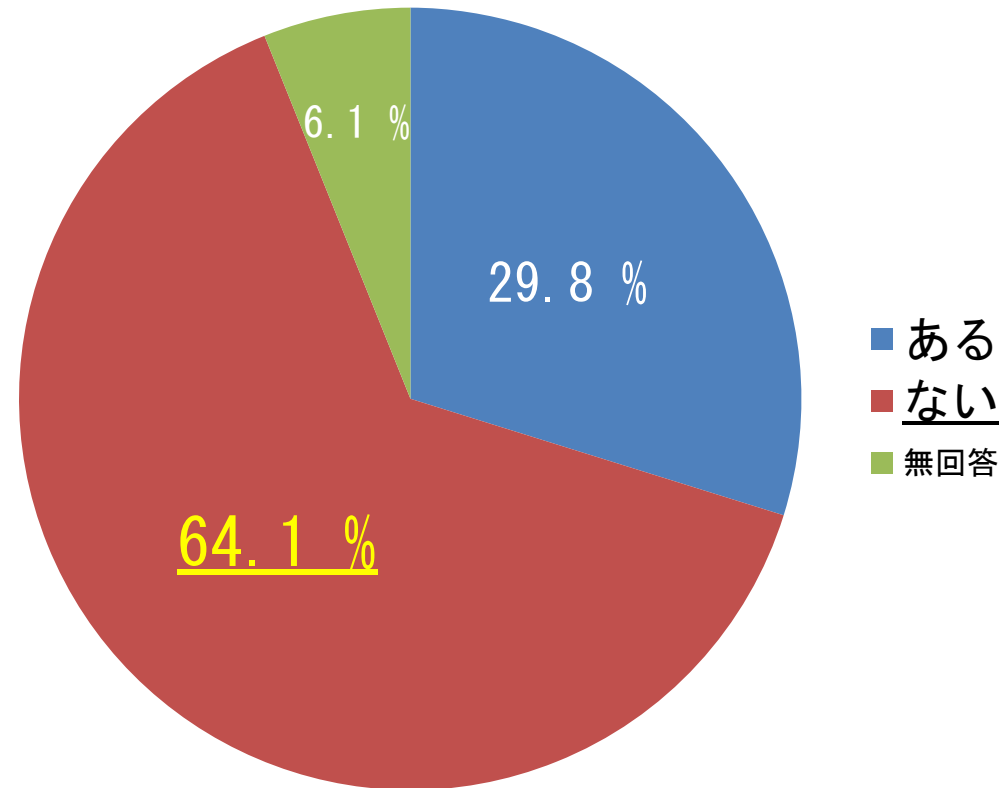
■ 「知っている」「なんとなく知っていた」を合わせると、緊急地震速報を見聞きした時のとるべき行動について、ほとんどの人が理解をしている。

■ 特に、「【家庭】頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する」(89.6%)、「【屋外(街)】看板や割れたガラスの落下に注意する」(88.0%)、「【屋外(街)】ブロック塀などの倒壊に注意する」(87.1%)は、「知っている」だけで90%程度と高くなっている。

■ 一方、「【家庭】むりに火を消そうとしない」(54.4%)「【鉄道・バス】つり革、手すりにしっかりつかまる」(53.9%)を「知っている」は、他の項目より低くなっている。

設問17 緊急地震速報を鳴動させた訓練の実施の有無

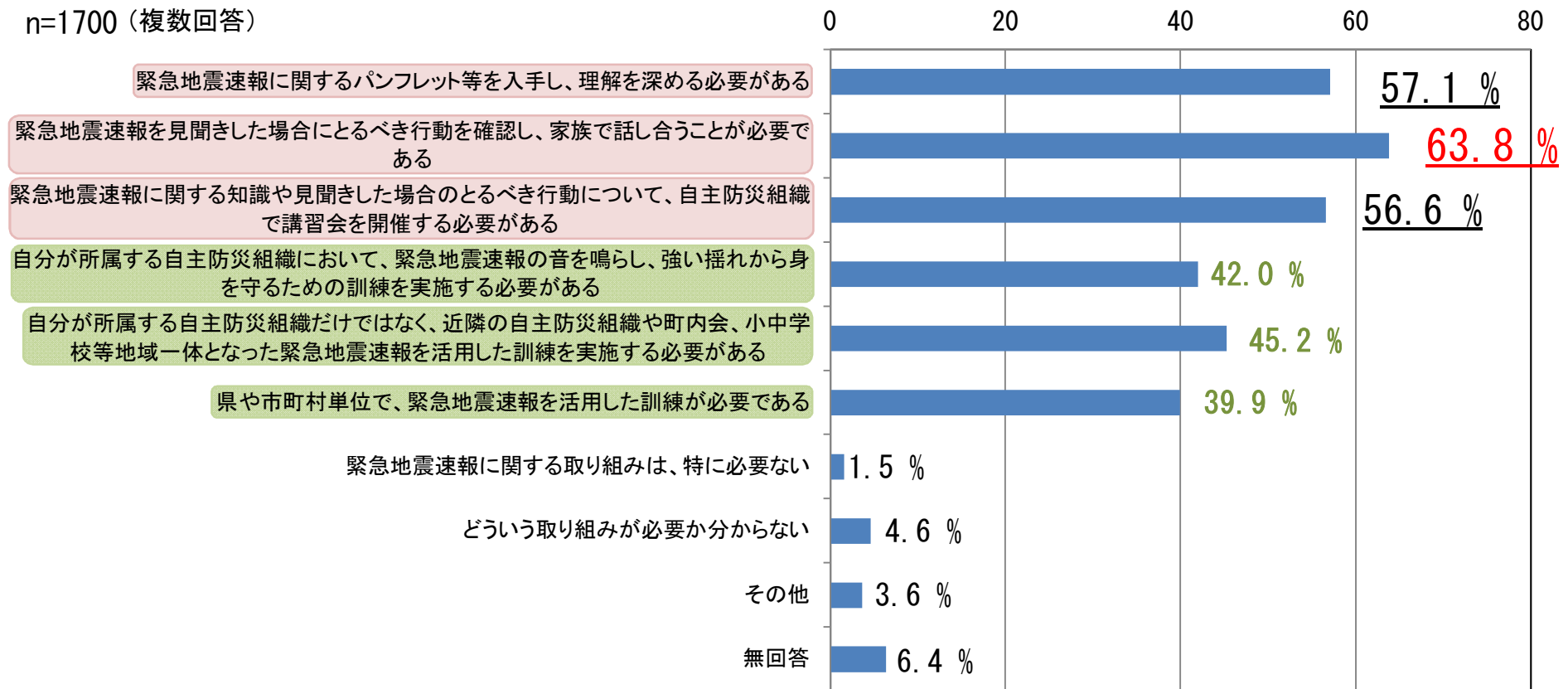
n=1609



■緊急地震速報の音を鳴らし、強い揺れから身を守る訓練を実施していると答えたのは、約30%になっており、約65%は緊急地震速報の音を鳴らした訓練は実施していない。

設問18 今後、自主防災組織等で取り組むべき事項

n=1700 (複数回答)



- 「見聞きした場合にとるべき行動を確認して、家族で話し合うこと」 (63.8%) と最も高く、次いで「パンフレット等を入手して理解を深める」 (57.1%)、「知識や見聞きした場合にとるべき行動について自主防災組織で講習会を開催する」 (56.6%) となっている。
- 緊急地震速報を見聞きした防災訓練の実施についても、「近隣の自主防災組織や町内会、小中学校等地域一体となった訓練」 (45.2%)、「所属する自主防災組織での訓練」 (42.0%)、「県や市町村単位での訓練」 (39.9%) と、それぞれ半数程度の割合となっている。